


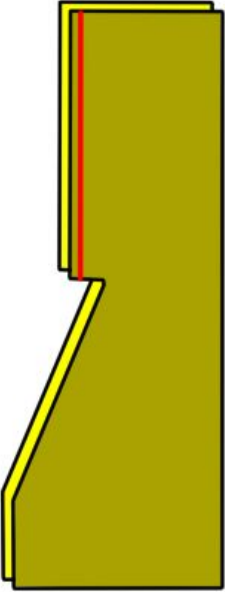

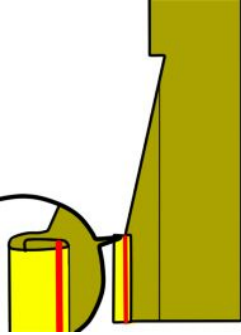
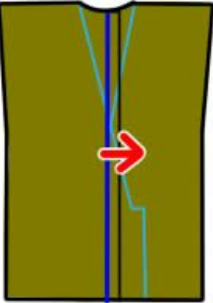

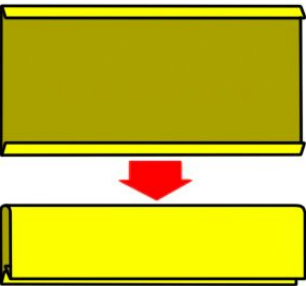

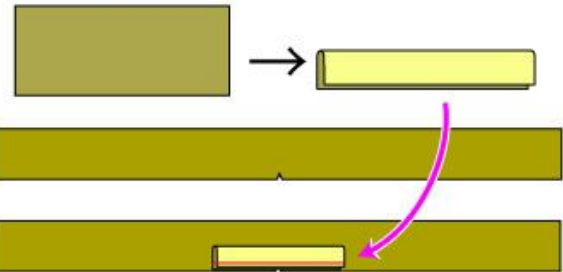
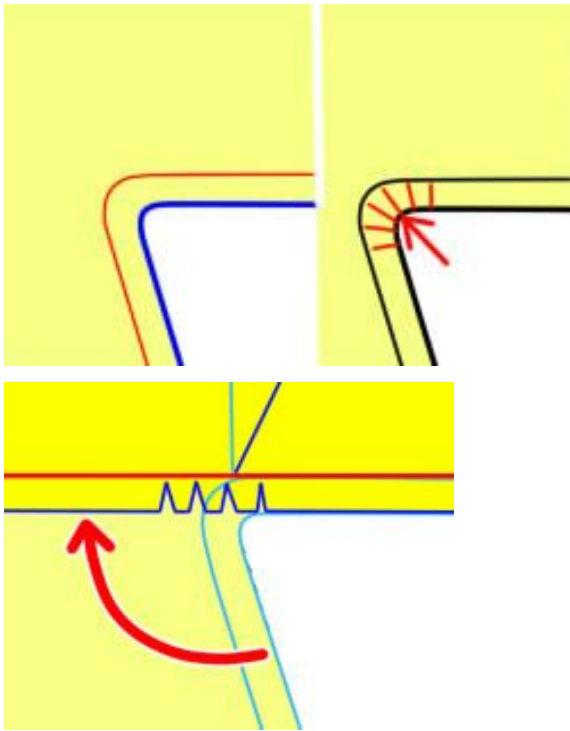


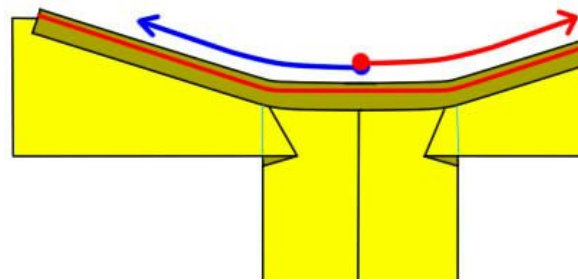
<p>  表  裏  接着芯 </p>	<p> 裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。 型紙で指示されたパーツの裏に接着芯を付けてください。 くわしくは縫う前の下準備を参照してください。 お洋服に模様や刺繍を入れたい場合はこの時点で入れておくと楽です。 </p>
	 <p>身頃を内側同士が表になるように重ねて、後身頃の中心を縫ってください。</p>  <p>えり付けの下の部分を三つ折りしてください。</p>
	 <p>アイロンで後身頃の中心の縫い代を裏から見て右に折ってください。</p>
	 <p>えりの縫い代をアイロンで折ってください。さらにそれを真半分に折ってください。</p>
	<p> 接着芯を貼る場合はここは飛ばしてください。 貼らない場合はえり芯を縫ってください。 えり芯を半分に折ってください。 えりを広げてください。 裏を上にしたえりに半分に折ったえり芯を重ねてください。 えりの中心とえり芯の中心を合わせてください。 端から5mmの所を縫ってください。 </p>



えりのカーブの所に切り込みを入れてください。
切り込みを入れることで、縫い代のラインをまっすぐに出来るので、直線のえりが縫いやすくなります。

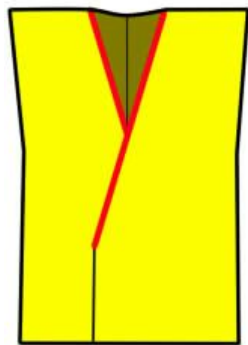
このとき縫い代をまっすぐにすると、肩側の身頃がだぶつきますが、だぶついた所を縫い込まないように気をつけて縫ってください。

切り込みは縫い代の内側まで。(0.7~0.9cm位)

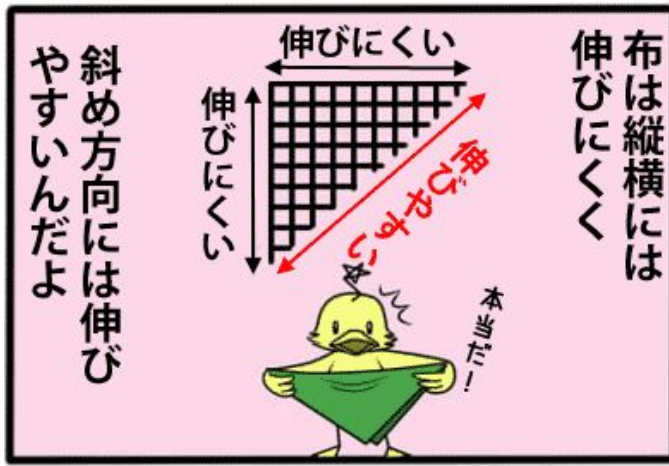


身頃の表側に、えりを裏を表にして重ねてください。

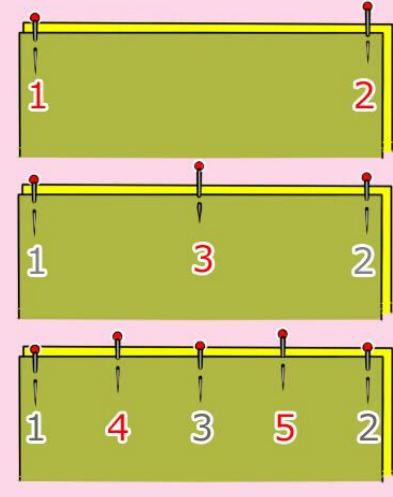
えりの中心と、後身頃の背中中の縫い目を合わせてください。
中心から左、また中心から右と縫っていくと綺麗につけやすいです。



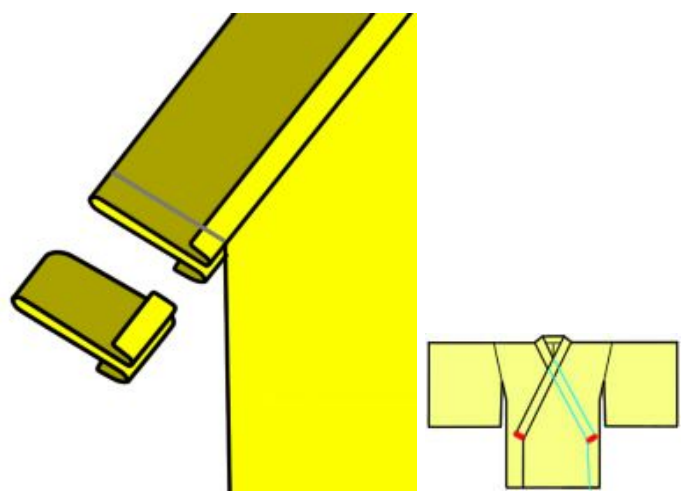
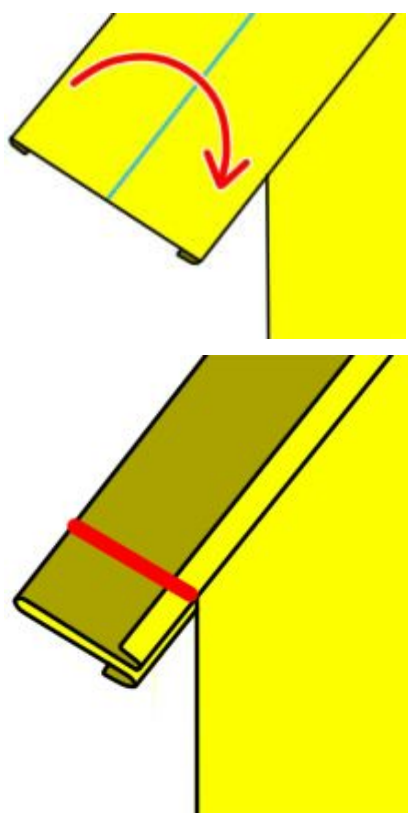
一般的な織物は縦横にはあまり伸びず斜め方向には伸びやすい性質があります。
なので端から順にえりをつけていくと型紙どおりに作ったのに長さが合わなくなることがあります。
えりは斜めに切られているの伸びやすいです。
だから生地長さどおりにつけると合わなくなるので下の図のように端同士を固定してから、中央をと、等分するように待ち針をさしてください。



先に両端を固定、次に等分した中心に刺し、更に待ち針を刺した区間を等分してピンを打つとズレにくいよ

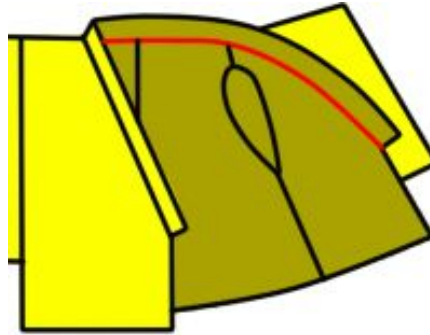
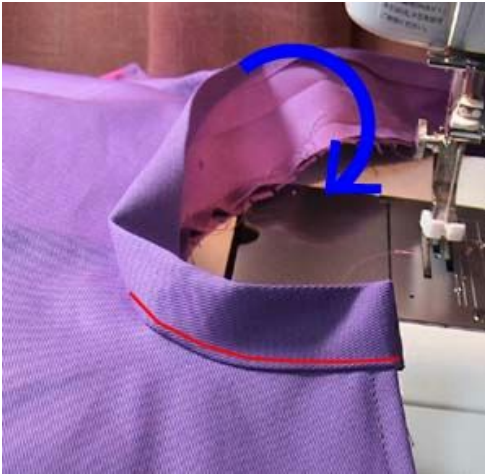


生地が長さが長くなる程、均等に合わせたつもりでもずれてくる場合があるので
(特に摩擦の高い生地などにおきやすい)



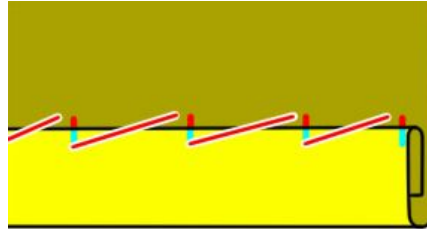
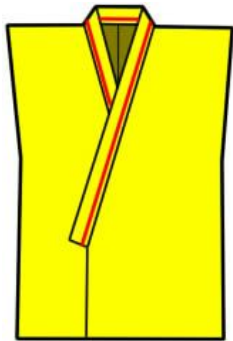
縫ってください。

えりの中心の折り山を裏が見えるように折ってください。
余分を切ってください。

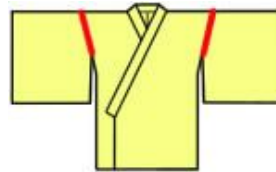
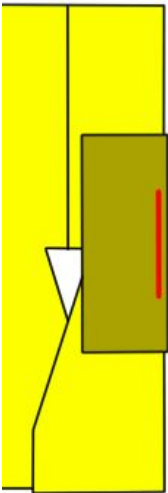


表替えて、裏から手縫い(まつりぬい)でもいいですし、

手っ取り早く済ませたい方は表からミシンで端から5mmの所を縫ってください。



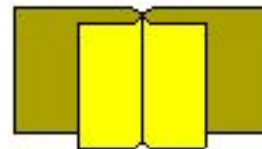
まつりぬい



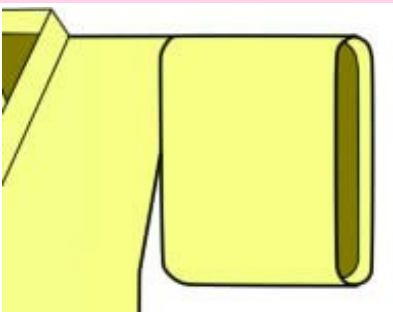
そでと身頃(胴体)を縫ってください。

表を上にした身頃の上に裏を上にしたそでを重ねてください。前後を型紙に「そでつけどまり」と書かれた区間を縫い付けてください。



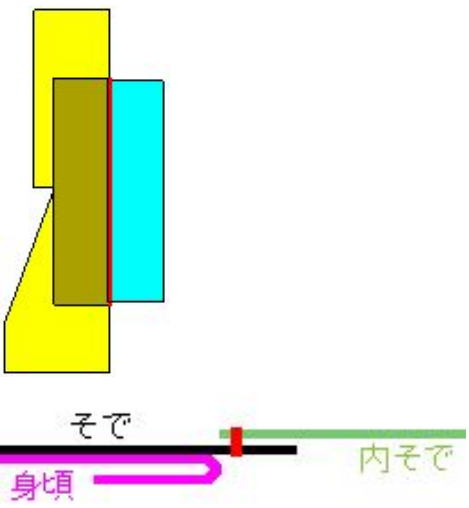
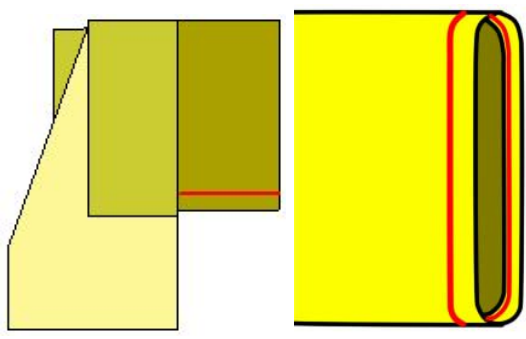
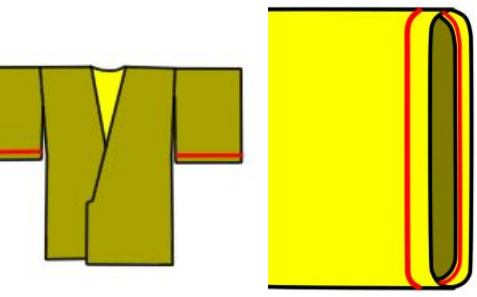
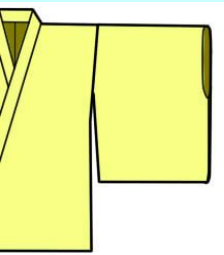
縫い代は左右に折ってください。

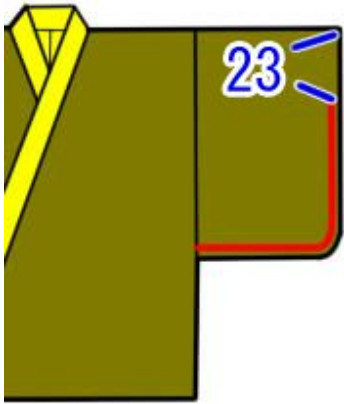


お裁縫の用語で割るといいます。

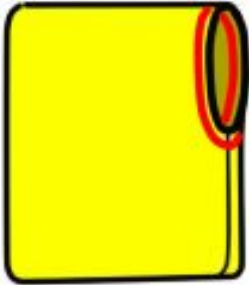


えりをつける
全部あいたそでの場合

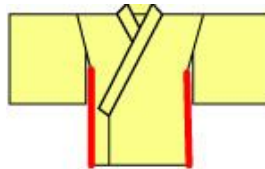
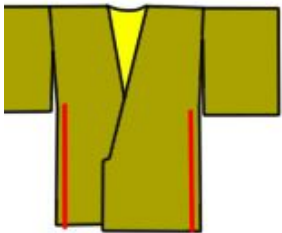
	 <p>内そでの身頃側の縫い代を折り、ミシンで縫ってください。</p>
	<p>そでの内側の縫い代に内そでを縫ってください。 内そでは、そでの型紙を利用してください。 このとき丈を1~2cm外のそでより短くすると、中で内そでが落ち着きます。</p>
	<p>内そでの底を縫ってください。 そで口を縫ってください。</p>
	<p>外そでの底を縫ってください。</p>
	<p>そで口が少しだけ開いているタイプ</p>



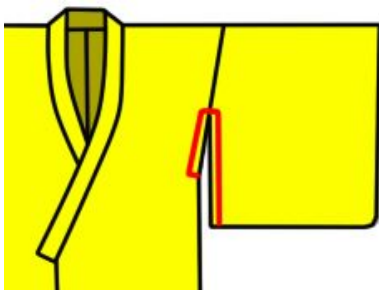
腕が通るように23cmあけて横と底を縫ってください。
角をすこし丸くしてください。



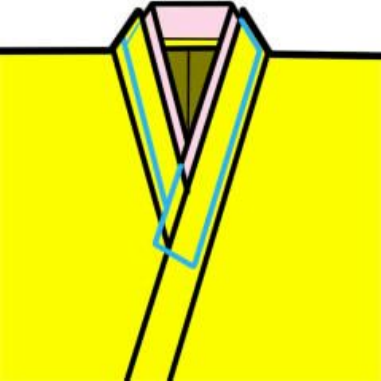
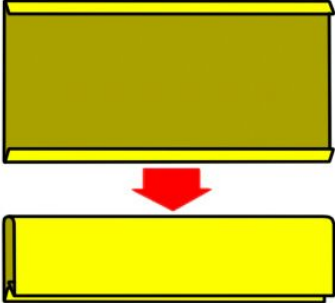


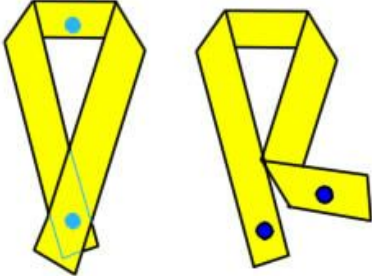
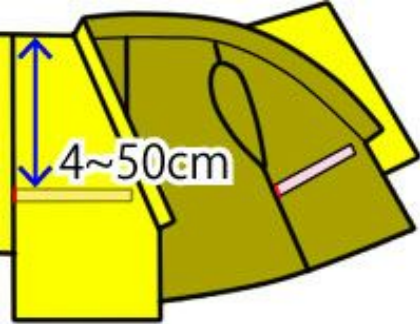
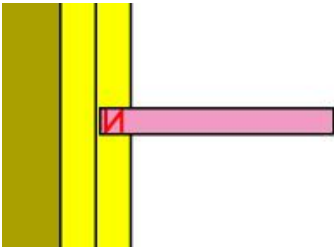
表側にひっくりかえしてください。
そで口の縫い代を内側に折り縫ってください。

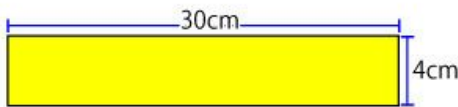
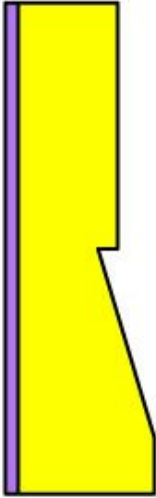
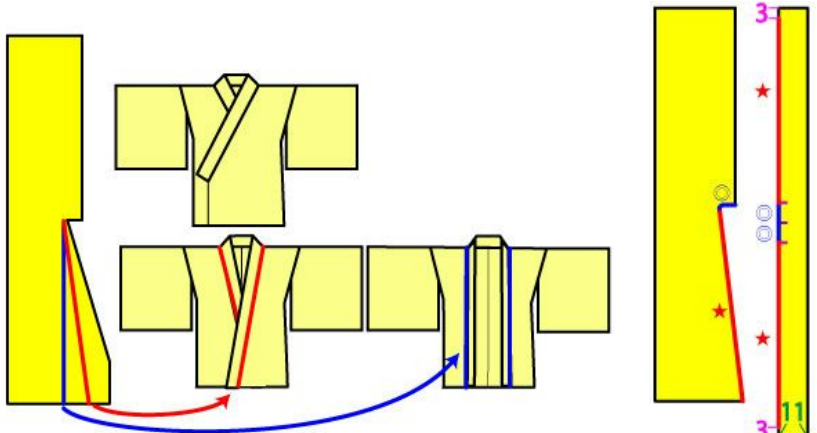


脇とすそを縫ってください。



身八つ口(そでと脇縫いの間のあいた部分)の縫い代を内側に折ってください。
端から5~7mmの所を縫ってください。

 <p>内えりはえりの型紙を使います</p>	<p>内えりをつけてください。 不織布などのかための芯を貼ってください。 長さは着方によってかえてください。 体型やキャラクターによって胸の重なりの位置が異なるので甚平を着たときにどこまでの長さだとはしが見えなくなるかを調べてください。 きっちりえりをあわせるのか、着くずすのかによってえりの見え具合が変わるからです。 体に刺さないように、見えなくなるような位置に待ち針を刺してください。 脱いでメジャーで実際の長さをはかってください。 きっちり合わせるときは短めにしたほうが落ち着きますし、着くずすときは長めじゃないと内えりの端が表から見えてしまいます。</p>
	<p>えりの縫い代をアイロンで裏へ折ってください。 表側が見えるように半分に折ってください。</p>
	<p>両端の縫い代を裏に折ってください</p>
	<p>表に返し、端から3~5mmのところをミシンで縫ってください。</p>
	<p>内えりの中心と、甚平の後中心にスナップボタンをつけてください。 前中心の重なりのところにもスナップボタンをつけてください。</p>
	<p>右脇と、左脇の上から4~50センチのところ縫い代に結び紐をつけてください。</p> 

	<p>結び紐は市販のリボンを使用すると楽です。 あまり布で作りたい場合は横30cm、縦4cmを上記のうちえりと同じように作ってください。</p>
 <p>男性用などにするために肩幅を広くする場合は左の図の紫の所を広くしてください。 1cm足せば肩幅は2cm、胸周りは4cm大きくなります。</p>	<p>左の図のように前のえりをたたんで角度を変えると前合わせを変えることができます。</p>  <p>ただし、胸の大きさや、着方によってあき具合が変わります。 えりはメジャーで直接はかって両橋を10cmほど長めにしておくとい いです。 えりの長さも変わるのでメジャーで直接はかって 縦 (後ろのえり+前のえりの長さ+3cm) × 2 横 11cmの長方形に切ってください。</p>

☆必要なもの

生地、接着芯、リボン（結び紐用・あまり生地で作っても良い）、針11～14番、糸60番

☆おすすめの生地

・ブロード無地・T/Cブロード無地（T/C＝ポリエステルと綿の混紡）

ポリエステルが入るとしわが入りにくくなります

初心者でも縫いやすく、比較的どこの生地屋さんでも入手しやすい生地。

ただし、製造工場によって幅が異なるので、幅の確認を忘れないようにね！

綿100%は安いですが、しわになりやすいので、鞆などに詰めて持っていく、コスプレには不向きかも。

室内着や寝間着として使用するなら汗を吸う綿100%は着心地がいいと思います。

・ポリエステルツイル

・綿ツイル

ツイルというのは斜めに織られた生地の事で、ブロードよりは少し厚みがあります。

薄い色の生地でブロードだと透けるから～という場合はこちらをオススメ。

といっても白は下に着る服が柄物だったり派手な色だったりすると若干透けます。

厚み分しっかりとした感じに仕上がります。